

開催の趣旨

当財団では、環境問題研究助成の成果を広く社会に還元するため、ニッセイ財団助成研究ワークショップを毎年開催しております。

平成 16 年度開催の第 19 回ワークショップのテーマは

「『持続可能な社会』実現への提言 - 環境再生、地域再生の視点から - 」です。

人類が 21 世紀以降も安定的に存続するためには、現在の社会を自然環境に調和したシステムに改造していかなければなりません。

大量廃棄を改め、省エネルギー・省資源に努め、廃棄物の再資源化・適正処理によって、環境負荷を低減する循環型社会の構築が必要であることは既に指摘されています。

今回のワークショップでは「持続可能な循環型社会を実現するために」を募集課題とする特別研究助成に採択された研究チームからその研究成果をご報告いただきます。

この研究は、深刻な公害被害や環境破壊を引き起してきた 20 世紀を概括し、既に国の内外で始まっているさまざまな「環境再生」への取組について総合的・多角的な調査・検討を行い、それらをもとに 21 世紀の「持続可能な社会」の実現にむけて、具体的な政策課題を明らかにする事を目的とした社会科学・自然科学の複数分野にまたがる共同研究です。

まず午前の部では、国際的な注目を集めている韓国での「都市環境再生」への取り組みについてソウル副市長の Yang Yoon Jae 氏に特別講演をお願いし、神戸大学の塩崎賢明教授からコメントと立教大学の淡路剛久教授からの基調講演をいただきます。

午後の部では、日本の公害問題の原点としての水俣の地域再生と釧路、豊岡、丹沢等での自然再生への取組に関する現場からの問題提起を受けたうえで、「環境とコミュニティの再生」「環境と産業の再生」「環境と交通の再生」「都市環境の再生」「自然・農村環境の再生」という五つのチームからの研究報告を頂き、一橋大学教授の寺西俊一氏をコーディネーターとして総合討論をしていただきます。